

資料 1 - 1

中部様式1

平成 3 0 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

岡崎市交通政策会議

平成 1 8 年 1 1 月 2 7 日設置

フィーダー系統 平成 2 9 年 8 月 2 日 確保維持計画策定

【岡崎市公共交通網形成計画】

《計画期間：平成28年度～平成32年度》

本市には、市中心部の「まちなか地域」、まちなか地域の外延部に位置する「郊外地域」、額田地域をはじめとした「中山間地域」があり、各地域で地域の特性に応じたまちづくりが行われている。

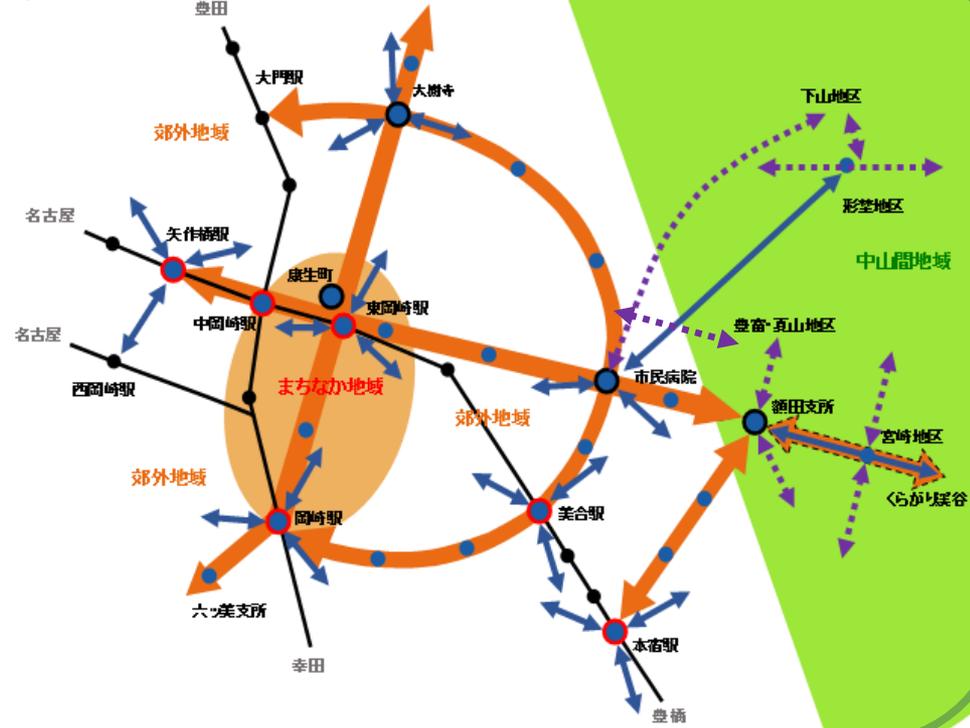
本市では、まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの構築等、持続可能な公共交通網を確保するため、平成28年5月に**岡崎市公共交通網形成計画**を策定し、公共交通施策の目標を右記のとおり設定した。また、広域的な地域間幹線についても隣接都市との交通ネットワークの主要路線として位置付けている。

公共交通施策の目標

- 1 少子高齢化の進展に対応した誰でも使いやすい公共交通の整備
- 2 地域のニーズにあった利便性の高い公共交通の整備
- 3 まちづくり施策との連携によるまちの魅力を高める公共交通の整備
- 4 地域のコミュニティの活性化や交流を促進する公共交通の整備
- 5 市民の意識変容による公共交通利用の促進

公共交通のネットワークのイメージ

凡例	
	鉄道
	基幹路線
	支線交通路線
	生活交通路線 (フィーダー補助対象路線)
	鉄道駅型交通結節点
	バス停型交通結節点



【主な取組】

1. 額田地域内フィーダー交通の確保・維持・改善 (補助対象事業)

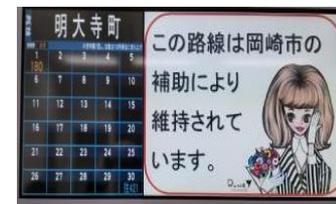
- ・額田地域のフィーダー路線について、接続の利便性を高めるための運行見直しを行った。
- ・額田支所市民病院線について、額田地域外の住民に利用状況等を情報提供し、利用促進の取組を行った。
- ・乗換検索サイトへデータ提供を行うことで、額田地域コミュニティ交通の経路検索をスマートフォン等から行えるようにし、利用者の利便性を高めた。
- ・地域内の中学生に出前講座を実施し、額田地域コミュニティ交通の利用者数や経費等の現状を説明し、バス路線の維持・廃止について議論することができた。

2. 利用促進の実施

- ・地域住民に対して利用状況や65才以上の方が便利でお得に利用できる得々パスのサービス内容を広く周知するため、チラシを配付した。
- ・公共交通マップを作製し、市内バス路線の情報提供を行った。(右上図参照)
- ・市内イベントにおいて「公共交通に親しむ日」を実施し、額田地域の魅力とともに実際に運行している車両の展示、マイ時刻表作成サポートコーナーの開設、バスの運転手体験、バスの乗り方教室等を開催した。
- ・「公共交通に親しむ日」の実施に合わせて、市内バス路線等を「小学生運賃無料の日」を設定した。
- ・バス事業者と協力し、市内小中学校において公共交通・交通安全教室やバスの乗り方教室を行い、「乗り方やICカードの使い方を学び、1人でバスに乗れる自信がついた。バスに興味を持った。」とバスの利用を促すことができた。(右写真参照)
- ・高齢者等を対象にバスの乗り方や活用方法等を紹介する生涯学習講座を実施し、バス利用者等の増加と公共交通への理解を深める機会を提供し、バス利用への転換を促す契機とした。
- ・岡崎・安城線の利用促進を図るため、安城市のバス活用ガイドに岡崎市内観光スポットを掲載し、観光利用への促進を図った。
- ・補助路線のバス車内に市による「補助路線」である旨を表示し、路線維持のため必要な利用を促している。(上写真参照)



公共交通マップ

市内中学校で実施した
乗方教室バス車内の液晶表示板
への表示

3. 地域内交通の整備 (非補助事業)

地域住民の主体的な取組に対して、地域の代表者等と連携・協力しながら次の取組を行った。

- ・アンケート調査による地域ニーズの把握及び結果分析
- ・地域検討組織の立ち上げに向けた支援
新規設立：六ツ美中部学区(打ち合わせ回数：6回)
協議中：保母町(打ち合わせ回数：2回)
- ・地域ニーズにあった多様な交通モードの検討 等々

4. 地域公共交通会議の開催 (非補助事業)

- ・岡崎市交通政策会議を4回開催した。
- ・利用促進に向けた改善に向けて、額田地域生活交通協議会を4回開催し、**利用状況や多様な運行形態等の情報提供を行い、地域住民の要望を把握することができた。**

5. まちバスの運行改善 (非補助事業)

- ・沿線の商業施設の撤退や居住施設の立地等、バスを取り巻く環境が変化していることから、市民の要望を踏まえ、まちなか等における利便性や回遊性の向上を図るため、平成30年1月から東岡崎駅に乗り入れし、交通結節を図り利便性の向上を図った。

【その他の取組】

1. 愛知環状鉄道のICカード導入 (平成31年3月予定)
2. 愛知環状鉄道の高架橋耐震対策・修繕



ICカード利用イメージ



まちバス

【岡崎市地域公共交通網形成計画における目標及びその評価】

目標達成に向けた取組による目標値を設定しているが、その目標値は計画期間の終了時である平成32年度のものである。計画期間中であるため、把握できる直近の現況値やその評価等を記載する。

成果目標	目標値（設定根拠）	直近の現況値（期間・時点）	達成状況
バス利用者数の増加	666万人/年以上(平成24年度乗客数以上)	677万人/年（平成29年度）	達成
駅のバリアフリー対応	未整備2箇所（計画策定時4箇所）	未整備4箇所（平成30年12月時点）	未達成
ノンステップバス導入率	50%（計画策定時38%）	43%（平成30年12月時点）	未達成
公共交通利用者数の増加	3,000万人/年以上 【計画策定時(平成24年度)】 2,993万人/年以上 鉄道乗客数：2,327万人 バス乗客数：666万人	3,190万人/年(平成29年度) 鉄道乗客数：2,513万人 バス乗客数：677万人	達成
地域内交通検討の地域組織の設立	6ヶ所【計画策定時】4箇所(平成26年度)	6ヶ所（平成30年12月時点）	達成
乗り方教室の実施回数	5回【計画策定時】1回(平成26年度)	6回（平成30年12月時点）	達成

○目標達成状況に対する考察と今後の方針

(1) 目標達成項目

- ・地域公共交通網形成計画に基づき、市民や交通事業者と連携協力し、バス路線の確保・維持、地域内交通の整備に努めたほか、利用促進やモビリティマネジメントを実施することができた。
- 移動手段に不便を感じている地域の声もあるため、地域住民とともに地域ニーズにあった多様な交通モードの検討を進める。

(2) 目標未達成項目

- ・引き続き事業者等との協議・調整や要望を行っていく。

【地域公共交通確保維持改善計画における目標及びその評価】

○額田地域内フィーダー交通の確保・維持・改善（補助対象事業）

【目標値】

①利用者数：平成28年度実績値の現状維持の数値

②利用率：人口が減少傾向にある地域であるため、平成28年度実績値から上昇するように目標値を設定

路線名	①利用者数		評価
	平成30年度 目標値(人) H29.10~H30.9	平成30年度 実績値(人) H29.10~H30.9	
額田支所市民病院	7,822	6,244	未達成
下山地区線	4,979	4,260	未達成
形埜地区線	811	886	達成
宮崎地区線	497	459	未達成
豊富・夏山地区線	434	488	達成

②利用率		
平成30年度 目標値(%) H29.10~H30.9	平成30年度 実績値(%) H29.10~H30.9	評価
0.28%	0.15%	未達成
3.34%	2.01%	未達成
0.32%	0.45%	達成
0.30%	0.63%	達成
0.09%	0.16%	達成

※「②利用率」=「③日利用者数」／「④沿線人口」×100

※日利用者数及び沿線人口（「③日利用者数」=「①年間利用者数」／「年間運行日数」）

路線名	③日利用者数		④沿線人口
	平成30年 実績(人) (H29.10~H30.9)		平成30年10月(人)
額田支所市民病院線	17.1		11,080
下山地区線	17.5		869
形埜地区線	6.1		1,352
宮崎地区線	4.9		776
豊富・夏山地区線	4.9		3,070



○目標達成状況に対する考察と今後の方針

(1) 目標未達成路線 (額田支所市民病院線、下山地区線)	
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生の通学利用者、定期的に利用していた高齢者が利用できなくなったため減少。 ・ 市民病院へのニーズが少ない。 ・ 額田地域以外への周知不足により利用者数が減少。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老人クラブの活動で市街地に行く際にバスを活用するよう呼びかけるほか、地域住民とともに、高齢者やこれから高齢を迎える年代に向けた利用促進を図る。 ・ 岡崎げんき館前バス停付近に駐輪場を整備しており、高校生の家庭に対してバス利用を促していく。 ・ 額田地域以外の沿線町内会へのニーズ把握を行う。 ・ 小学生の利用促進策として、夏休みのバス利用に対してP T Aが補填する取り組みを、引き続き実施する。
(2) 目標達成路線 (形埜地区線/宮崎地区線/豊富・夏山地区線)	
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療所からの帰りのダイヤ変更のほか、便数を増加するなど、利用者ニーズに合わせた運行ダイヤ等の見直しを行ったため。 ・ 地域への利用状況等の回覧や地域協議会への情報提供により、運行見直しの周知が利用者へ図られた。
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き地域とともに利用促進を図るとともに、最適な運行形態を検討していく。 ・ 高齢者定期券購入費の1割を地域が助成する取組を継続して行う。
(3) 共通	
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・ 額田地域の沿線人口が減少傾向にある。 ・ 車を運転する高齢者が多い。(地域協議会より)
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者やこれから高齢化を迎える年代に向けて、会合やイベント等の日程に合わせた時刻情報等を提供するなど、公共交通利用への転換促進を呼びかけていく。 ・ 地域の中学校で出前講座を実施し、地域の将来を担う中学生自らが公共交通を通して、地域の将来について考える機会を提供する。

課題

対応方針

1 額田地域内フィーダー交通の確保・維持・改善

- ・額田地域以外の住民のほか、高齢者や高校生の利用を増やす必要がある。
- ・車を運転する高齢者が多い。



- ・額田地域以外への地域に利用状況の周知を図り、地域住民とともに利用促進策の検討を進める。
- ・地域住民とともに、高校生家庭へのバス利用のほか、高齢者やこれから高齢化を迎える年代向けに、公共交通利用への転換促進を図るようメッセージを発信していく。
- ・事業者等と連携を取りながら、路線再編に向けた検討を行う。

2 利用促進策の実施

- ・効果的な利用促進策は継続して実行し、新たな取組も行っていく必要がある。



- ・中学生などの今後のバス利用者となる可能性高い世代を対象に利用促進策を実施し、対象を小学生へ拡大し、小さなうちから公共交通利用の意識をもってもらう。
- ・高齢者向け出前講座により、公共交通利用の意識改善を図る。

3 地域内交通の整備

- ・交通不便地域においては、高齢者等の移動手段の確保が課題となっている。



- ・地域検討組織の設立を支援し、定時定路線に限らず、地域ニーズにあった利便性の高い多様な移動手段を検討していく。

対応方針の具体的実現に向けて

【中山間地域・交通不便地域】

- ・地域住民とともに高齢化を迎える年代や高校生の通学利用者に対する利用促進を図る。
- ・地域住民の主体的な取組に対して、地域住民や事業者等と連携して地域ニーズにあった利便性の高い移動手段の検討をおこない、高齢者等の移動手段の確保を目指す。

【市内共通】

- ・高齢者や免許返納者に対する施策等、本市における他の施策と連携し、関係部署と研究を進めていく。
- ・岡崎市地域公共交通網形成計画の現状把握や評価検証のうえ改善を図り、次期計画へ向けて見直しを行う。

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

岡崎市交通政策会議

平成18年11月27日設置

フィーダー系統 平成29年8月2日 確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>利用者数が伸び悩む中山間部において効率的で効果的な路線再編と利用促進の推進を期待するとともに、近隣市町との連携による広域的な公共交通ネットワークを構築することを期待する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通マップの作成や市内イベントにおいて、沿線地域とバス路線の紹介等の利用促進策を実施した。 ・利用状況の地域への回覧のほか、多様な運行形態等の情報提供を行い、利用促進に向け改善に努めた。 ・乗換検索サイトへデータ提供を行うことで、額田地域コミュニティ交通の経路検索をスマートフォン等から行えるようにした。 ・安城市と連携し、バス活用ガイドへの観光情報の掲載など、岡崎・安城線の利用促進を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民とともに定時定路線の運行形態の見直しを含めた検討のため、地域ニーズの把握及び分析を行い、地域ニーズにあった多様な移動手段を検討し、中山間部では分析結果をもとに、バス路線再編を含めた効率的で効果的なネットワークの構築に向けて検討を行う。 ・検索サイトへのデータ提供を継続し、利用しやすい環境を整える。 ・広域的な路線については近隣市町と情報交換を密に行い、新たな活用に向けて連携の強化を図っていく。

2.アピールポイント

◎ 地域協議会での協議・意見交換

額田地域には額田地域生活交通協議会のほか、地域内に5つの協議会が設置されている。協議会とは連絡を密にとり開催時には市職員も必ず参加し、利用状況のほか、多様な運行方法等を他市事例を交えて情報提供し、地域ニーズにあった効果的な移動手段を地域とともに検討するなど、積極的な支援を行っている。(額田地域生活交通協議会4回、地域協議会等7回開催)

1 地域住民ニーズ等の把握

利用者アンケートを実施し、利用者ニーズに対応した運行内容への改善や移動手段を検討した。

- ・ 額田地域住民全戸対象
- ・ 利用ニーズの高い各学区の診療所利用者対象(額田北部診療所・額田宮崎診療所・星野クリニック)
- ・ コミュニティ交通利用者対象

※アンケート結果等を地域協議会で協議し、地域ニーズに対応した定時定路線型の見直しを含めた、効率的で効果的な路線再編に向けた検討を行う。

2 利用促進策の実施

- ・ 老人クラブの活動で市街地に行く際にバスを活用しているほか、岡崎げんき館前バス停近くに駐輪場を整備し、高校生の利用を促進している。
- ・ 地域が料金の一部を補助（PTA：小学生利用。社会教育委員会：高齢者利用）する取組を実施。
- ・ コミュニティ交通の利用状況等をまとめたチラシや、路線バスのお得なサービス（得々バス）を広く周知するためチラシを作成し、地域住民へ回覧することで利用促進を図った。
- ・ 地域のイベントなど住民が集まる機会を捉え、バス利用案内等の周知を図った。
- ・ 乗換検索サイトへ時刻表や停留所情報等のデータを提供し、額田地域コミュニティ交通等の経路検索をスマートフォン等から行えるようにし、利便性を高め利用しやすい環境を提供し、目標達成に向けて取り組んだ。
- ・ 地域内の中学生に総合学習として出前講座を実施し、中学生自らが公共交通を通して、地域の将来や中山間地での公共交通の維持・廃止について議論することができた。

◎ その他の公共交通利用促進

・まちバスの運行改善

市民からの要望を踏まえ、東西ルートを経由するにあたり、名鉄バスとのダイヤ調整のほか、名鉄電車の特急や愛知環状鉄道に合わせたダイヤ調整を行い、乗継利便性を図った。

・公共交通に親しむ日の実施

平成30年11月3日（土）、4日（日）の2日間、行政、交通事業者、地域住民の協議会等と連携し「公共交通に親しむ日」事業を実施し、次世代を担う子どもたちや高齢者を始めとした市民等が公共交通に親しみ、公共交通の重要性を知ってもらう啓発イベントを実施した。

・新たな地域内交通の要望があがった地域で、行政の支援のもと地域検討組織が設立された。また、地域検討組織と協議連携により「免許返納後の移動手段が不安。日常の移動手段に困っている。」など高齢者の足の確保等の課題や住民の移動ニーズを把握することができた。

地域住民の課題解消に向けて、引き続き地域検討組織や事業者等と協働し、新たな交通手段等の導入に向けた検討を進める。

・市民活動団体による「路線バスの旅企画」の広報に協力した。

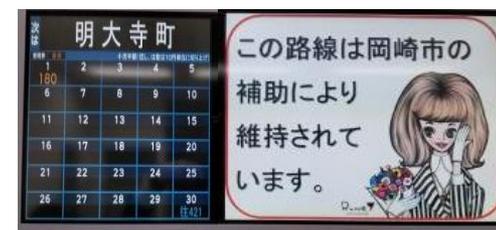
・補助路線のバス車内に市による「補助路線」である旨を表示する取組を開始し、利用者に路線維持のため必要な利用を促している。

・鉄道からバスへの乗換利便性を向上させる。

（JR岡崎駅東口及び西口・名鉄東岡崎駅の整備を継続。）



公共交通に親しむ日
(運転手体験)



バス車内の液晶表示板
への表示